

最終回 企業の真の課題を究明し  
経営に役立つプロジェクトを推進

## 会社紹介

タプロス株式会社

秋田県秋田市寺内字後城322-3

設立：1956年

従業員数：60名

事業内容：一般家庭用・業務用・工業用LPガスの販売、住宅設備機器販売、冷暖房・LPガス配管の設計施工等。大館、能代など5つの営業所を持つ

URL：http://www.tapros.co.jp/

秋田県の大手LPガス販売会社タプロスは、ITコーディネータの活用でシステムの課題を乗り越え社内改革に取り組み、各種プロジェクトを推進している。その様子をお伝えしてきた本連載も今回が最終回である。

タプロスは、ITの活用に積極的な企業であるが、6年前に自社開発から切り替え、新たに構築したシステムで障害が発生。本稼働を迎えられない状況であった。

そうした状況で、木村繁社長が先輩経営者から「企業は経理なら税理士・会計士、法律なら弁護士、労務なら社労士とそれぞれ専門家の支援を受けている。ITにも企業の立場に立って支援する専門家がいる」とIT専門家の活用を勧められたことがITコーディネータとしてタプロスを支援するきっかけだった

プロジェクト支援へ  
支援内容の変化

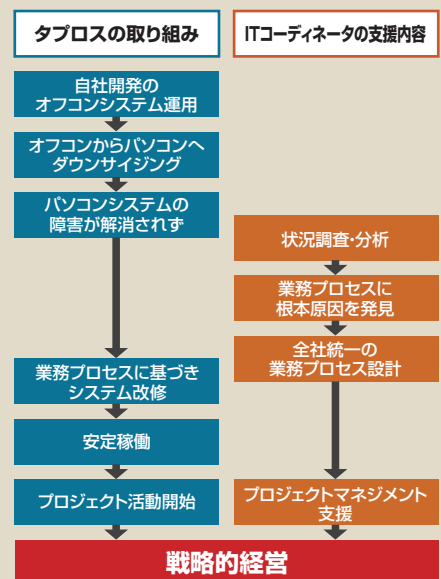
不具合の状況を確認し根本的な原因が何かを関係者と協議。同じ会社の同じ業務なのに事務処理の方法と手順が何種類もあることに気づき、全社で統一した業務プロセスにもとづいたシステムを構築することが障害復旧の最善、最短の方策であると考えた。そこで木村社長にプロジェクト化を提案し承認され、システム障害復旧プロジェクトがスタートした。

プロジェクトでは業務の機能と流れに情報の流れを体系立てて整理しタプロスとベンダーの双方がシステムで実現すべきことを可視化した。プロジェクトは成功しシステムの安定稼働が実現した。

この成果が後にITだけでなく業務の標準化、営業強化、事務処理効率向上などの様々なプロジェクト活動につながった。

プロジェクトのスタート時はQC活動に近いものであったが、木村社長は「最初から大きいテーマにせず、将来のタプロスに役立てるよう小さい成功を積み重ねること」と考えていた。プロジェクトリーダーにプロジェクトの計画立案や運営方法、活動成果のまとめ方などの支援を行い、全社の取り組みとしてから4年目に入った現在では、経営に役立つプロジェクトとして、社員が一丸となって取り組んでいる。

タプロスの経営成熟度が向上するにつれ、ITコーディネータとしての活動範囲も広がっている。



技術支援からスタートし、現在では経営まで支援範囲が拡大。ITコーディネータとして支援する場合には、目の現象のみに目を向けるのではなく、課題の根本原因を究明し解消することが必要である。

タプロスは、「そこに暮らしがある限り」をキャッチフレーズに、LPガス、天然水、灯油、太陽光発電や燃料電池などの地域のライフラインを支える事業を展開している。プロジェクト活動とITの活用を積極的に進め「小さくても強い会社」を目指し実現している。

経営とITの両面で企業を支える人材としてITコーディネータの活躍の場も着実に広がっている。

(ITコーディネータ 大澤昌氏)